

## プロフィール

大学を卒業後、米国の経営大学院を修了。国際協力機構 (JICA) スーダン・ハルツーム事務所、JICA 南スーダン・ジュバ事務所、アジア諸国でのフィールド勤務を経て、外務省平和構築人材育成事業に参加。

6週間の国内研修後、1年間の海外実務研修では、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) エジプト・カイロ事務所に赴任。4万人のシリア難民向け資金支援プログラムの主任担当官 (Chief Coordinator for Unconditional Cash Assistance to Syrian Refugees)。海外実務研修終了後の現在も、UNHCRエジプト事務所で勤務。2016年夏より、中東・アフリカ諸国のUNHCR事務所へ異動して、引き続き難民支援に尽力する予定。

(2015年9月現在)

### 1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

大きく2つの理由がある。1つ目は、生涯難民支援に従事していくにあたり、難民保護と支援分野を率いている国連組織で勤務する機会を得るため。2つ目は、広島での6週間に渡る国内研修の素晴らしい評判を過去の研修員から伺い、是非参加して理論と実務のバランスを身につけたいと考えたためである。

### 2. 国内研修に参加した感想は？

まず、実務経験が豊富な講師が多く、それぞれの助言がフィールドでの業務をイメージでき腑に落ちるものばかりだった。これまでの自分の赴任地スーダン、南スーダン、アジア諸国での経験を交えて議論し、多くの助言をいただくことができた。

加えて、外国人研修員15人との議論が、非常に刺激的で勉強になった。様々な角度からくる視点が何より新鮮で、彼らと一緒に人道支援、緊急援助、援助協調、紛争解決といった分野を徹底的に議論した。具体的には、ワークショップ・援助協調シミュレーション会議・紛争解決模擬ゲームを通して、プロジェクトの提言を形にすることで、実務的かつ理論的に概観する貴重な機会となった。

### 3. 海外実務研修での活動について教えてください。

海外実務研修先は、UNHCRエジプト・カイロ事務所である。主な担当分野は2つあり、1つ目はシリア難民向け資金支援プログラムの主任担当官 (Chief Coordinator for Unconditional Cash Assistance to Syrian Refugees)。2つ目は、事業実施NGO・政府組織との実施計画・予算配分等を含む契約管理業務である。

1つ目の資金支援プログラムの概要は以下の通りである。

**プログラムの目的：**エジプトに避難してきた最も生活に困窮しているシリア難民に対して、毎月の資金支援を行う。またシリア難民支援に投入された資金が、エジプトのシリア難民受け入れ地域で使われ、受け入れ地域の市場に対して間接的な経済的支援となっている。

**受益者：**エジプト全土に避難している最も脆弱なシリア難民、毎月約4万人。年間約48万人分に値する支援。エジプトには、推定25万人のシリア難民が避難しているとされており、そのうちUNHCRに登録している難民は、14万人。脆弱な状態とは、経済的に困窮しており、社会的にも弱者である状態のこと。支援の優先度を定めるため、様々な細かい基準が設定されている。



コミュニティー担当官と、2016年プログラム計画書の作成会議の様子。

**プログラム予算規模：**年間約11億円。

**担当業務：**本プログラムの主任担当官。全体のマネジメントと進捗管理。

**実施チーム構成：**UNHCR各部署からなる16名、エジプトの地方を管轄するNGOパートナー7名を含む、多国籍チーム23名（メンバーの出身国はケニア、セネガル、コンゴ民主共和国、スーダン、ギリシャ、イタリア、フランス、スウェーデン、イギリス、インドネシア、バングラデシュ、パキスタン、エジプト、ヨルダン、シリア、日本など）。

以上のようなプログラムを、主任担当官として実施・管理している。プログラムで最も重要な点は、限られた予算をいかに支援が必要としている難民に届けられるかである。そのため、毎月の支援対象である4万人のシリア難民の選定作業は、UNHCRの各部署や地方を管轄するNGOと緊密に連絡をとり、難民からの問い合わせや緊急的なニーズ（立ち退きの恐れ、交通事故、精神的・身体的病気など）の反映、難民登録の情報更新、難民の生活実態調査の情報更新等が、常に迅速に最新の注意を払いながら行われることを実施・監督している。

受益者の選定後は、資金配布を担当している国営エジプト郵便局に資金を送金して、エジプト全土に4000箇所ある郵便局支店より、難民それぞれが資金支援を受け取る。資金を受け取る際は、難民登録カードを見せ、登録番号、アラビア語氏名、顔写真で照合し、それぞれの難民が安全に確実に支援を受け取っている。

1年半前の立ち上げ時の本プログラムは、様々な問題があり、シリア難民の資金支援プログラムの受給率は75%に留まっていた。しかし、現在では事業の改善を続け98%に達し、毎月最も支援が必要なシリア難民の生活を支えている。

また本プログラムに付随する業務として、エジプト国内のインフレ率を支援に反映するため、市場やスーパーマーケットの価格調査、シリア難民を受け入れているエジプト人地域住民との会議を行い、様々な問題解決に努めている。

2つ目の担当業務は、事業実施NGO・政府組織との実施計画・予算配分等を含む契約管理業務である。UNHCRが

委託している事業や業務支援については、契約管理が必要であり、契約時の予算見積もりに対して、毎月の予算の支出状況の管理やプロジェクトの進捗管理を行う。



難民保護担当官と、難民選定のための脆弱性基準表の改定作業の様子。

#### 4. 海外実務研修での感想は？一番印象に残っていることは？

これまでシリア難民・イラク難民を始め、エジプトに避難してきているアフリカ系難民（出身は、スーダン、エリトリア、エチオピア、ソマリアなど）と接するにつれ、いかに難民の人々の人生が複雑で、生活が困窮してるのか悟った時、自分のできるものがあまりにも小さすぎると感じた。それと同時に、自分が貢献できる部分は最大限力を注ぎ、彼らの支えになろうと決意したことを覚えている。

また、赴任当時、担当プログラムの受益者数・予算規模が大きく、責任が重大な上、常に正に迅速に職務の履行を求められプレッシャーを感じた。今も同様のプレッシャーを感じながら、時折事務所前で起こる難民の方による国際社会や国連に対して行われるデモを見ては、気を引き締めて業務をこなしている。

#### 5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

これからもエジプト事務所で勤務をして、2016年夏には緊急支援のフィールドが散在するUNHCRの北アフリカや中東の事務所へ異動して、引き続き難民支援に尽力する決意である。長期的には、生涯難民支援の専門家として、専門性を磨き結果を出して、日本人として、世界の難民問題解決へ少しでも貢献していけたらと考えている。



生計向上担当官との、プログラム案の校正作業の様子。

#### 6. 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

この事業は、国際開発・国際協力に生涯プロとして従事したい方の大きな一歩を踏み出す機会を提供してくれる。また経験豊富な講師や世界中からの研修仲間と朝から晩まで議論する国内研修に加え、国連機関事務所での勤務機会も提供される。この研修も、もうじき9年目を向か

え、研修員同士の縦のつながりもあり、是非お勧めできる事業である。ご一読いただき、ありがとうございました。